

新基地建設反対名護共同センターニュース

新基地阻止へ集中行動で徹底抗議

辺野古新基地建設をめぐって「500人集中行動」が23日から始まりました。23日は700人が座り込みに参加、最近一日3百数十台の作業車が搬入していましたがこの日は、4時間半も搬入を阻止し、終日で121台にとどまりました。

各地からバス運行
集中行動が開かれる28日まで、島ぐるみ会議など県内各地から往復バスを運行します。地元の島ぐるみにお問い合わせください。

今日、海上座り込み
25日は、ヘリ基地反対協主催で海上座り込みと午後1時から辺野古の浜で連帯集会を開催します。多数ご参加を！



連日、機動隊が数百人駐の車抗で議り動込へみ参加妨害を

ゲート前 二重駐車で妨害する機動隊

24日朝、作業車搬入ゲート前には機動隊の大型バスが二重駐車し、前日までの座り込みの場所を奪い妨害するという暴挙にでました。集まった数百人がそれでも非暴力で必死に抗い、1時間半以上作業車の搬入を阻止、抗議しました。



サンゴ「移植で保存できない」大久保准教授指摘

ヘリ基地反対協は21日、名護市内でサンゴ問題シンポジウムを約100人の参加で開催しました。基調講演で東京経済大学の久保奈弥准教授（生物学=写真）が、これまで移植されたサンゴの生残率の低さを紹介し、「移植によるサンゴ礁生態系の復活は難しく、移植は環境保全措置にならない」と指摘。辺野古新基地建設について「いったん埋め立てれば海は元に戻らない。今あるサンゴを守るべきだ」と訴えました。大久保さんは、泡瀬干潟や那覇空港埋め立て事業で移植されたサンゴの8～9割が死滅したことを報告、「移植でサンゴ礁再生は無理。移植技術の発展などプラス面だけを誇大に宣伝することは、開発に免罪符を与える」と警告しました。日本自然保護協会の安部真理子さん、ライターの浦島悦子さんも、サンゴや暮らしを守る立場から新基地建設反対を訴えました。



四街道で「沖縄と憲法」講演会

千葉県四街道革新懇は21日、名護共同センターの早坂義郎氏を招き「沖縄から見える日米安保と憲法」と題し総会の記念講演会を開催。参加者から「初めて聞くおじやおばあの話や沖縄のマスコミの姿勢に感動しました」との感想が出されました。終了後、沖縄支援カンパが寄せられました。

「アベ退陣！」国会前3000人が抗議



伊波参院議員があいさつ

「戦争させない・9条壊すな」総がかり行動実行委員会などが19日、安倍内閣退陣を求め、国会議員会館前で抗議行動を開催、3000人が参加。

共産党山下芳生副委員長や伊波洋一参院議員などが訴えました。

伊波氏は「辺野古新基地を許さず全国と連帯し、たたかい抜く」と決意表明しました。

